

きん じょう てん か 錦上添花

錦ヶ丘中学校
学校便り
10月18日発行 NO.20
文責 出崎 友英

コミュニケーションの力

10月11日(金)に、「錦文化の日」が行われました。「君は主役(ヒーロー)になれる」のテーマのもと、たくさんプログラムが繰り広げられ、多くの生徒作品も展示されて、そのひとつひとつのクオリティも高く、とても心が揺さぶられる有意義ですてきな一日でした。

日本の代表的な企業を対象に行われたアンケートで、「人材採用にあたって重視する能力」の順位は次のようになっています。(2018年経団連の調査結果より)

- | | |
|-----|---------------------|
| 第1位 | コミュニケーション能力 (82.4%) |
| 第2位 | 主体性 (64.3%) |
| 第3位 | チャレンジ精神 (48.9%) |

他の能力を抑えてコミュニケーション能力が断トツです。この傾向は、この20年ほど変わっていません。

日本の企業は、コミュニケーション能力が高い人材を求めています。逆に言えば、最近の若者のコミュニケーションの力が弱ってきていることの現れではないかと、私には思えます。

コンビニ、自動販売機、ネットショッピングなど、人と会話することなく買い物をすることができる社会になりました。

仕事や友人との連絡も電話からメールへと変わっています。かつては会話の音が響きあっていた職場では、みんなパソコンに向かって黙々と仕事をしています。

学校から帰って、親から「今日、学校どうだった？」と聞かれて「別に…」と返事する。「楽しかったの？」と聞かれて「ふっふ…」と答える。そんな中学生も少なくないのではないのでしょうか。➤

そんな社会の中で、コミュニケーションの力を身につけることは、中学生にとって困難であるからこそ、とても大切な課題だと思います。

大阪教育大学の野口克海先生によれば、コミュニケーションの力を高めるためのポイントは、「話すネタ」と「場慣れ」だそうです。

コミュニケーションがうまくできないのは、何を話せばいいかわからない、つまり「話すネタ」を持っていないからで、人前で話す経験が乏しく、「場慣れ」していないために、コミュニケーションを苦痛に感じるのだそうです。

「話すネタ」を増やすためには、体験をすることが一番です。自分が実際体験して、その時にどう感じたか、どう行動したか、何ができて何ができなかったか…といった体験から得た、「話すネタ」を多く持つことが君たちのコミュニケーションの力を引き出してくれます。

そして、クラスの友達に自分の意見を伝えたり、みんなの前で発表したりするなどの経験を重ねながら「場慣れ」していくことで、君たちのコミュニケーションの力は高まっていくはずですよ。



「錦文化の日」の取り組みを通して、皆さんは人に伝える「話すネタ」をいくつも得たことだと思います。そして、ステージに上がったり、多くの人を相手に発表したりする経験で「場慣れ」をし、一人一人のコミュニケーションの力がきっと高まっていると思える、そんな「錦文化の日」でした。

市中体連駅伝大会

10月16日(水)、市中体連駅伝大会がフードパル周回コースで開催されました。夏を思わせる暑さの中、起伏に富んだ難コースで、各中学校を代表する精鋭と健脚を競い合いました。結果、男子が優勝、女子が準優勝に輝き、熊本市代表として11月に天草で開催される県大会に男女そろって出場することになりました。

また、女子1区の2年〇〇さん、2区の3年〇〇さんは見事区間賞を獲得しました。駅伝チームの皆さん、おめでとうございます。指導・サポートいただいた先生方、保護者の皆様ありがとうございました。



◆お知らせです。

○10月7日(月)に、PTAサポート委員会による「給食試食会」が開催され、27人の保護者の方々が参加されました。

この日の給食の献立は「パン、牛乳、タイピーエン、にんじんサラダ、ミックスかりんとう」でした。栄養教諭の〇〇先生から、学校給食の現状などについての説明があり、その後会食されました。



試食会でのアンケートでは「いつもおいしい給食をありがとうございます。」「物価高の中、この価格で作ってもらえることが大変ありがたい。」「レバーは給食のが、一番おいしいと言っています。」などの感想が寄せられました。企画・運営いただいたPTAサポート委員会の皆様、ご参加の保護者の皆様ありがとうございました。

現状維持は後退に等しい。今より少し難しいことに挑戦しないと成長はない。 「先生のコトバ集」より